

「NEXCO中日本」ブランド



ブランド・ネーム

会社の英語表記の一部である「Nippon Expressway Company」の頭文字であると同時に「NEXT(次なる)」「Co(共に)」という、ふたつの言葉を組み合わせ私たちの姿勢や熱意を表現しました。

ロゴマーク

シンボルマークは、頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムをあらわすと同時に「道进行ること」がもたらしてくれる心の躍動感をあらわしています。ロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりある道路空間を表現しています。

ブランド・カラー

ネクスコ・オレンジ。中部日本エリアの活発なにぎわいをイメージした、力強いいきいきとしたオレンジ色。

ご案内

■ NEXCO中日本お客さまセンター

お客さまからのお問合せに正確にわかりやすくご案内いたします。

0120-922-229

■ 道路緊急ダイヤル

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルです。ご協力をよろしくお願いたします。

#9910

■ ハイウェイテレホン

お客さまのいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を24時間自動音声で提供しています。

#8162

■ ハイウェイ交通情報サイト  
「アイハイウェイ 中日本」



VOC(揮発性有機化合物)を含まない  
植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない  
水なし印刷方式で印刷しています。



適切に管理された森林から生産されたことを  
示すFSC認証用紙を使用しています。



視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン  
フォント(書体)を使用しています。



未来が変わる。日本が変わる。



CSR報告書 2012

道を通じて感動を 人へ、世界へ ダイジェスト版

# NEXCO中日本事業エリア



## 事業概要

### 高速道路事業

**建設事業：高速道路の整備**

着実かつ効率的・効果的に事業を推進し、建設中路線をより早期に開通させるなどにより、皆さまの期待にお応えします。

**保全・サービス事業：高速道路の維持管理**

災害に強く、より安全、安心、快適な高速道路の管理・運営を通じて、お客さまに満足していただけるサービスを24時間365日提供します。

### 関連事業

**サービスエリア事業**

「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまをお迎えし、何度でも訪れたいと感じていただけるような感動にあふれたサービスエリアを創造します。

**その他事業**

旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、当社グループが培ってきた高速道路に関する技術・ノウハウを活用して、海外の高速道路事業へも積極的に参画します。



# NEXCO中日本グループの概要

私たちNEXCO中日本グループは、高速道路事業(新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道などの新規ネットワークの早期完成、わが国の基幹をなす路線を24時間365日「安全・安心・快適」に提供するための管理・運営、大規模災害時の迅速な対応など)及び関連事業(感動にあふれたサービスエリアの創造や積極的な海外事業の展開など)を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

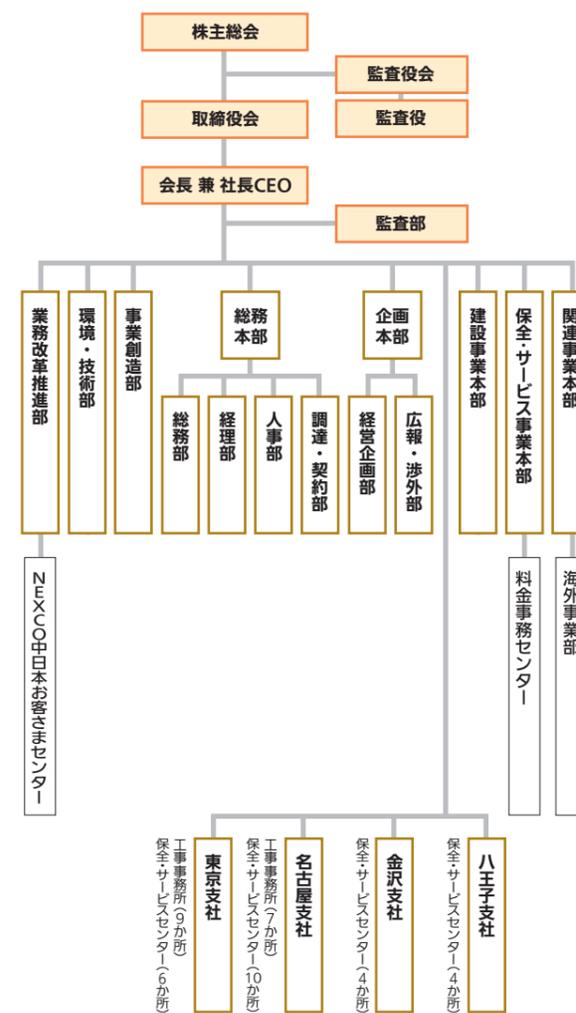
## 会社概要



商号：中日本高速道路株式会社  
 (Central Nippon Expressway Company Limited)  
 代表者：代表取締役社長CEO 金子 剛一  
 本社所在地：名古屋市中区錦2丁目18番19号  
 設立年月日：2005年10月1日  
 従業員数：2,094名[グループ全体 9,153名] 2012年3月31日現在  
 グループ会社：17社(持分法適用関連会社14社)  
 資本金：650億円  
 事業内容：高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

## 組織体制

2012年4月1日現在



## グループ概要

2012年3月31日現在

### ■ 連結子会社 17社

- サービスエリア** 中日本エクスプレス(株)/ (株)エイチ・アール横浜/ (株)グランセルセiwサービス
- 料金收受** 中日本エクストール横浜(株)/ 中日本エクストール名古屋(株)
- 交通管理** 中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)/ 中日本ハイウェイ・パトロール名古屋(株)
- 維持修繕** 中日本ハイウェイ・メンテナンス東名(株)/ 中日本ハイウェイ・メンテナンス中央(株)/ 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)/ 中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸(株)/ 中日本ロード・メンテナンス東海(株)
- 保全点検** 中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京(株)/ 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
- 人材・サービス** NEXCO中日本サービス(株)
- 製品販売・開発** 中日本高速技術マーケティング(株)
- コンサルティング** 中日本高速オートサービス(株)
- 車両管理業務** 中日本高速オートサービス(株)

### ■ 持分法適用関連会社 14社

- トラックターミナル** 北陸高速道路ターミナル(株)
- ICT** (株)NEXCOシステムズ
- 技術開発・調査・研究** (株)高速道路総合技術研究所
- 料金收受機械保守** ハイウェイ・ツール・システム(株)
- 保険代理店** (株)NEXCO保険サービス
- 海外事業** 日本高速道路インターナショナル(株)(JEXWAY)
- 維持修繕** 日本ロード・メンテナンス(株)/ 中日本ロード・メンテナンス中部(株)/ (株)東京ハイウェイ/NHS名古屋(株)/ ティーシーメンテナンス(株)/(株)高速保全/(株)アステック
- 保全点検** 中日本施設管理(株)

※2012年4月2日に中日本ハイウェイ・アドバンス(株)、同4日に中日本ロード・メンテナンス静岡(株)、同9日に東京ロードメンテナンス(株)が連結子会社となり、計20社となりました。

# 世界一の高速道路会社、 「夢」を実現できる会社をめざし、 日々挑戦を続けます。



わが国の社会・経済に甚大な影響を与えた東日本大震災から1年が経ちました。私たちはこの未曾有の大災害を経験し、高速道路のもつ社会的重要性とその事業を担うNEXCO中日本グループの果たすべき役割の大きさを再認識しました。

被災地の一日も早い復興に向けた積極的な支援はもとより、当社管内において、より災害に強く信頼性の高い高速道路づくりを進めていきます。

社会の期待に応え、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことが私たちの役割だと考えています。

この役割を果たすべく、経営環境がどのように変わろうとも、変わるこのことのない経営理念の根幹として、2030年に「『夢』を実現できる会社」、2015年に「世界一の高速道路会社」という目標を掲げ、着実な一歩を踏み出しました。

2011年度から、この目標達成に向けた具体的な指標として、KPI(重要業績評価指標: Key Performance Indicator)を設定し、さまざまな取組みをグループ一体となって進めています。2011年度は概ね目標を達成しましたが、死亡事故率や事業多角化指数など、一部目標を達成できないものもありました。2012年度は、この結果を真摯に受け止め、2015年度の目標達成に向け、検証と実践を繰り返し、新たな領域にも果敢に挑戦していきます。

高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループにとっては、CSRは本業そのものであり、本業を通じてCSRを実践するという経営姿勢に立ち、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ねながら、お取引先の皆さまとも協働し、CSRを実践しています。

当社グループならではのCSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」の3つの重点領域について、当社グループ内のみならず、地域やNPOなどと広く連携しつつ積極的に進めています。また昨年明らかとなった不祥事を踏まえ、基本的なCSR活動として、再発防止策を徹底するとともに、高い倫理観に根ざした企業文化の醸成や社会から信頼される企業グループの実現をめざし、コーポレートガバナンスのさらなる強化やコンプライアンス意識の一層の向上に取り組みます。

このCSR報告書は、経営計画の進捗状況や、「世界一の高速道路会社」をめざして、日々挑戦する私たちの姿をご紹介します。

是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2012年6月

中日本高速道路株式会社  
代表取締役社長CEO

金子剛一

## 経営理念

### ⇒ 私たちの役割

私たちは、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

### ⇒ 私たちの基本姿勢

私たちは「より良い会社でより強い会社」をめざすことにより、私たちの役割を果たします。その方向付けとして、以下の『6つの基本姿勢』を掲げます。

1. お客さまを第一にする
2. 社会の信頼を獲得する
3. 革新的であり続ける
4. 環境を重視する
5. 現場に立って考え行動する
6. チームワークを大切にする

## 経営方針

### ⇒ 5か年を通じた経営基本方針

『世界一の高速道路会社をめざして』  
～すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足を～  
～飛躍へのたゆまぬ挑戦～

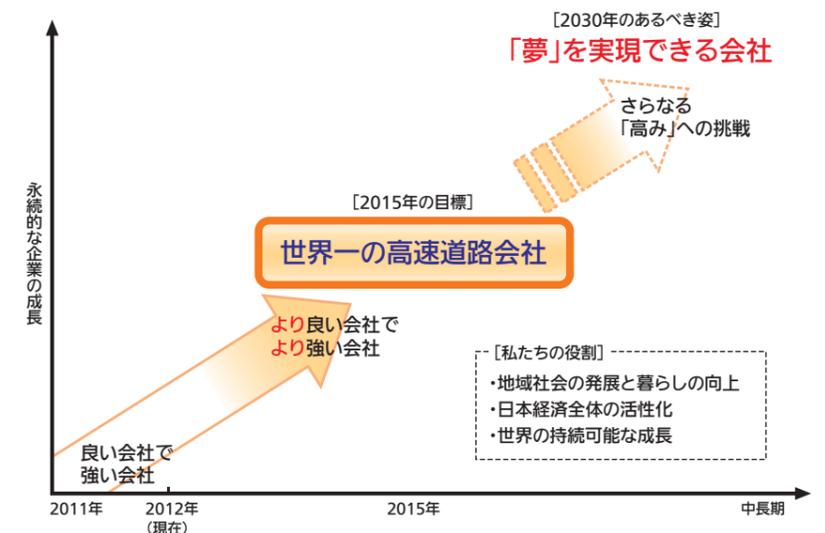
### ⇒ 2012年度の経営方針

1. 「世界一の高速道路会社」に向けた施策の確実な実行
2. 期待を超える感動のお届けと揺るぎない信頼の獲得
3. 新たな領域への果敢な挑戦

## コーポレート・スローガン

# 『道を通じて感動を 人へ、世界へ』

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めています。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来へつないでいきます。



# KPI (重要業績評価指標)

NEXCO中日本グループは、2015年度に「世界一の高速道路会社」を実現し、さらには自立した「夢を実現できる会社」をめざします。そのために、グループの現在の姿を示す指標としてKPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)を設定して施策の達成状況を把握し、効果的に事業を進めることで皆さまの期待に応えていきます。

※1 測定指標の見直し/施策への取組みとその効果や達成状況の関係をより直接的に把握するため、2012年度から次の項目について測定指標を見直します。  
**【通行止め時間】**測定の対象を、事故・工事・雪・雨による通行止め時間から、事故・工事(災害復旧含む)・雪による通行止め時間に変更します。あわせて、通行止め時間の総計を示します。  
**【渋滞量】**単位を渋滞損失時間(万台・時間)から渋滞量(千km・時間)に変更します。  
**【関連事業売上高成長率】**事業多角化指数(関連事業売上高÷(通行料金収入+関連事業売上高))を、関連事業売上成長率(2010年度を100%とする関連事業連結売上高の割合)に変更します。  
 ※2 見直し前の測定指標による数値を示しています。  
 ※3 環境省が公表した2010年度の排出係数で算出しています。経営計画2011公表時の目標値「10,223(t・CO<sub>2</sub>)」は2009年度の排出係数で算出したもので、2010年度の排出係数で算出すると「8,360(t・CO<sub>2</sub>)」になります。  
 ※4 高速道路ネットワークが整備されることなどによる一般道から高速道路への交通の転換も考慮しています。  
 ※5 NEXCO中日本(グループ会社を除く)の数値を示しています。

【凡例】2011年度の達成状況  
■ 目標達成 ■ 10%未満の未達 ■ 10%以上の未達

カテゴリ	測定指標	単位	2011年度目標	2011年度実績	2012年度目標	2011年度の主な事業活動と成果	2012年度以降の方針	
お客さま	通行止め時間(※1)	時間	1,794	1,352 1,200	3,335 1,633	1,203 2,172	1,192 —	
	安全・安心	死亡事故率	人/10億台km	1.6	1.9	1.5	—	
	渋滞量(※1)	渋滞損失時間(※2)	万台・時間	158.0	154.9	135.3	1,204	—
		CS調査値 (高速道路事業とサービスエリア事業のお客さま満足度の平均値)	点	64.3	60.9	66.7	—	—
快適・感動	感動指数	点	—	38.6	40.7	—	—	
	環境	CO <sub>2</sub> 排出量(オフィス活動によるもの)(※3)	t-CO <sub>2</sub>	8,360	7,112	7,041	—	—
地域連携		CO <sub>2</sub> 排出量(路線延長1kmあたり)(※4) (保全・サービス事業、関連事業、お客さま車両の走行によるもの)	t-CO <sub>2</sub> /km	5,241	5,240	5,275	—	—
	拡大成長・技術	サービスエリア店舗総売上高	億円	1,530	1,502	1,690	—	—
関連事業 新規事業		件	2	2	4	—	—	
新商品・サービス件数		件	5	12	20	—	—	
関連事業売上高成長率(※1) (2010年度の売上高を100%とする)		事業多角化指数(※2)	%	—	29	122	129	
海外事業	海外事業プロジェクト累計件数	件	1	0	2	—	—	
	技術開発	特許出願件数	件	15	19	16	—	—
組織・人材	モチベーション	ES調査値(働きがい)	点	3.50	3.47	3.54	—	—
	イノベーション	経営職登用年齢(最年少)(※5)	歳	45	43	42	—	—
		イノベーションからの事業化件数	件	1	1	3	—	—
	ダイバーシティ	女性管理職数(※5)	人[累計]	5	5	5	—	—
生産性	建設コスト削減累計額	億円[累計]	145	167	185	—	—	
	km当たり管理費	百万円/km	69	72	68	—	—	
	サービスエリア事業売上高営業利益率 [サービスエリア事業営業利益/サービスエリア事業営業収益]	%	19	16	16	—	—	
	従業員1人当たりサービスエリア事業売上高 [サービスエリア事業営業収益/サービスエリア事業従事社員]	百万円/人	105	106	108	—	—	
	総労働時間(グループ全体)	時間/年	2,000	1,987	1,950	—	—	



特集  
01

# 高速道路ネットワークの充実

信頼性の高い高速道路ネットワークの構築により、お客さまにとって安全・安心・快適な高速道路空間を提供します。

NEXCO中日本グループは、経営を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、2016年度までに322kmの高速道路を新規に開通し、社会経済活動の根幹を支えるインフラとして、地域相互の交流、沿線地域の産業の活性化、他の交通機関との有機的結合による人・モノ・情報の流れの円滑化などに貢献します。

## 新東名(御殿場JCT～三ヶ日JCT)は、2012年4月14日に開通しました。

わが国のビッグプロジェクトの一つである新東名高速道路(新東名)のうち、御殿場JCT～三ヶ日JCT間が、1993年11月の施行命令から18年5ヶ月の歳月を経て2012年4月14日に開通しました。

当区間については、新東名・東名高速道路(東名)のダブルネットワーク化による災害などの緊急時の代替路線の早期確保

の観点や地元のお客さまのご要望も踏まえ、できる限り早期の開通をめざして事業を進め、関係するお客さまのご支援・ご協力により、当初予定していた2012年度末から1年程度開通を前倒しすることができました。

なお、今回の開通区間は約162kmであり、これまで開通した日本の高速道路の中で、一度の開通としては最長のもです。

参考:新東名 海老名南JCT～豊田東JCT間は254km



## 新東名(開通区間)の特徴

### 特徴.1 | 東名の抜本的サービス改善

東名 御殿場IC～三ヶ日IC間(4車線)における、新東名開通前の一日の平均交通量は約74,000台となっており、交通集中による渋滞が多く発生していました。

新東名の開通により、東名・新東名に交通が分散し、定時性・快適性が確保され、静岡県内の渋滞がほぼ解消されます。



※資料:2010年 渋滞データ(NEXCO中日本)

【東名の交通渋滞の状況】



※資料:2011年1月～11月 静岡県内通行止めデータ(NEXCO中日本)

【東名の通行止めの状況】

### 特徴.2 | ダブルネットワークによる信頼性の向上

新東名の沿線地域は東海地震の防災対策強化地域及び東南海・南海地震の防災対策推進地域に指定され、特に東海地震が今後30年間で発生する確率は88%といわれています。

加えて、東名と国道1号、JR東海道本線が集中する由比海岸は大規模な地すべり地帯であるうえ、海側の東名は台風高潮による通行止めが頻発しています。

今回、新東名の開通により、東名との間で相互に行き来が可能なダブルネットワークが形成されたことにより、災害など緊急時の代替路線の確保、避難路・緊急輸送路としての機能、緊急体制の支援など、安全・安心の実現、道路の信頼性の向上を図ることができました。

### 特徴.3 | 日本の大動脈としての大都市圏の連携強化

新東名では、最短ルートを選択やゆとりのある構造規格の採用により、東名ルートに比べ、東京・静岡・名古屋圏の都市間の移動が短縮され、人やモノの流れがスムーズになり、行動圏が拡大することで社会経済活動の活性化に寄与することが期待されます。

また、静岡県内の東名のICから離れた地域と県内主要都市間の所要時間が短縮し、地域の活性化や地域間の交流機会の増加が期待されます。



※資料:2005年 道路交通センサスより算出(新東名は100km/hで算出)

【大都市間の移動時間の変化】

### 特徴.4 | 安心な暮らしへの貢献

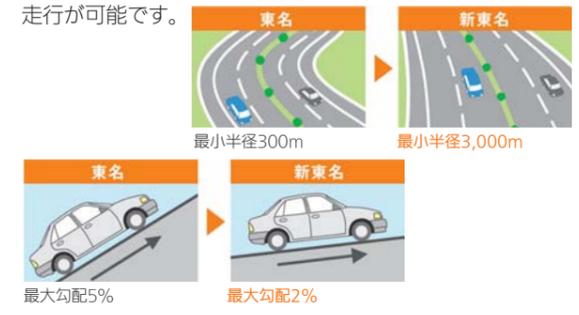
静岡県内各地から高速道路へのアクセスがしやすくなり、救急医療施設への搬送時間が大幅に短縮されるとともに、新東名におけるサービスエリア・パーキングエリアの12か所にヘリポートを設置したことで、高速道路事故への迅速な対応や防災への備えが強化され、安心な暮らしへの貢献が期待されます。



【救急救命センターへの搬送時間短縮例】

### 特徴.5 | 安全で快適な走りやすい高速道路

新東名は、東名と比べてカーブも坂道もゆるやかなことが構造上の大きな特徴です。これまで以上に、より安全で快適な走行が可能です。



【本線の幾何構造(御殿場JCT～浜松いなさJCT)】

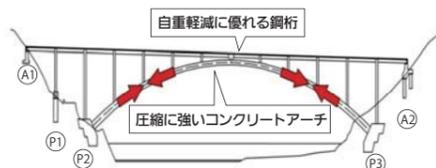
新東名(開通区間)の建設を支えた最先端技術

新東名は山間部を通るため、大規模な橋梁やトンネルが存在しますが、安全と品質を確保しつつ、コストを縮減するために新技術や新工法を積極的に採用し、土木学会などからいくつもの技術的な表彰を受けています。

新富士川橋(富士市～富士宮市) 2004年度土木学会田中賞



新富士川橋は、一級河川富士川をまたぐ建設当時世界一の支間長265mの長大アーチ橋です。わが国で初めて「鋼・コンクリート複合アーチ橋」を採用しており、アーチ部材・鉛直材の圧縮特性に優れたコンクリート構造と、鋼製の上部桁を組み合わせた合理的な構造で、通常のコンクリートアーチ橋と比べ、重量が約40%軽減され、約20%のコスト削減が可能となりました。



圏央道(高尾山IC～八王子JCT)は、2012年3月25日に開通しました。

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化などを目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路で、現在までに約110kmが開通しています。

このうち、国土交通省と共同で事業を進めてきた高尾山IC～八王子JCT間の2kmが2012年3月25日に開通しました。今回開通

した高尾山IC～八王子JCT間は、2013年度に全線開通が予定されている東名から中央自動車道(中央道)のネットワークの一部となっています。

東名と中央道が結ばれることにより広域ネットワークが形成され、都心部への通過交通の抑制による混雑緩和や、並行する国道16号・国道129号などの混雑緩和が期待されるとともに、圏央道沿線への企業立地の促進や地域の活性化が期待されています。

開通区間の整備効果の事例

①地域活性化の支援

圏央道整備に伴う沿線での新たな拠点整備により、地域の活性化に期待が寄せられています。

②観光の支援

高尾山への時間短縮が見込まれます。

③医療圏域の拡大

中央道 上野原ICから第三次救急医療施設である東京医科大学八王子医療センターまでの所要時間が短縮し、救命活動の向上が期待されます。



開通式の様子



八王子JCT (八王子城跡トンネルから高尾山トンネル方面)



高尾山IC

2016年度までに、322kmの高速道路を新たに開通させます。

路線名	区間 (IC・JCT名は仮称のものを含まず)	延長 (km)	完成予定年度	備考
新東名高速道路	海老名南JCT～厚木南	2	2016	
	御殿場JCT～三ヶ日JCT	162	2012	2012年4月14日開通
	浜松いなさJCT～豊田東JCT	55	2014	
中部横断自動車道	六郷～増穂	9	2016	
新名神高速道路	四日市JCT～四日市北JCT	4	2015	
紀勢自動車道	紀伊長島～紀勢大内山	10	2012	
舞鶴若狭自動車道	小浜～敦賀JCT	39	2014	
首都圏中央連絡自動車道 (圏央道)	茅ヶ崎JCT～寒川北	5	2012	中央道、東名、新湘南バイパスが圏央道を介して2014年度に接続
	寒川北～海老名JCT	4	2014	
	海老名～相模原愛川	10	2012	
	相模原愛川～高尾山※	15	2013	
東海環状自動車道	大垣西～養老JCT	6	2012	2012年9月開催の「ぎふ清流国体」までに開通
	東員～四日市北JCT	1	2015	

※相模原ICは2014年度の完成を予定しています。

Topics トピックス

新規事業化区間の概要



東京外かく環状道路

東京外かく環状道路は、東京都心から半径およそ15kmに位置する総延長約85kmの首都圏の環状道路で、都心への交通の適切な分散導入による交通の円滑化、環境改善、災害時の迂回機能の確保などを図る上で重要な役割を担う道路です。

本事業は、「直轄事業と有料道路事業による事業方式」であり、当社は、国土交通省と連携して早期整備に向けて事業を進めていきます。  
[完成予定年度 2020年度] ※当社は、中央道～東名間の事業を行っています。



名古屋環状2号線

名古屋環状2号線は、名古屋市の外周部を通る総延長約67kmの環状道路で、名古屋市を中心に放射状に伸びる幹線道路を主要地点で連結し、名古屋都市圏をネットワークする上で重要な役割を担う道路です。

本事業は、「直轄事業と有料道路事業による事業方式」であり、当社は、国土交通省と連携して早期整備に向けて事業を進めていきます。  
[完成予定年度 2018年度]

# お客さまに感動していただけるサービスエリアへ

「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまをお迎えし、何度でも訪れたいと感じていただけるような感動にあふれたサービスエリアを創造します。

音をテーマとした憩いのスペース



新東名 NEOPASA浜松(上り)

長距離運転の疲れをマッサージチェアやシャワーで癒していただけます



新東名 掛川PA(下り)

新東名の開通にあたり、新たな時代を象徴する「NEOPASA」のブランドを確立します。すでに営業中のサービスエリアについても、これまでのサービスエリアの概念を超えた「EXPASA」を軸に、個性豊かで魅力的なサービスエリアで、お客さまの多様なニーズにお応えします。



新東名 NEOPASA駿河湾沼津(上り)

プレミアムなパウダールームもご利用いただけます



新東名 NEOPASA浜松(上り)

## 新たな“おもてなし”空間



楽しい園地で家族で遊べる

お客さまに自由に選び楽しんでいただける、新鮮で魅力あふれるエリアとして、新東名に新たなブランド「NEOPASA」を展開しています。

各エリアに地域性を考慮したコンセプト・特徴をもたせ、お客さまのニーズにあわせてエリアを選択いただけるように、一から創り込んだサービスエリアです。

新東名高速道路 商業施設一覧	
NEOPASA駿河湾沼津	上り・下り
NEOPASA清水	上下一体
NEOPASA静岡	上り・下り
藤枝PA	上り・下り
掛川PA	上り・下り
遠州森町PA	上り・下り
NEOPASA浜松	上り・下り



新東名 NEOPASA静岡(下り)

エリアから駿河湾が一望できます



新東名 NEOPASA駿河湾沼津(下り)

エリアで車・バイクの展示販売も



新東名 NEOPASA駿河湾沼津(上り)



新東名 NEOPASA清水

## EXPASA を軸に個性豊かなエリアに

2010年度から展開している「EXPASA」を、2011年度には海老名上りと談合坂下りの2か所でもOPENしました。

その他のサービスエリアにおいても、本物志向の品揃えや地場産品などを充実させるとともに、立地を活かしたさまざまな演出を施すなど、個性豊かで魅力的なサービスエリアを展開しています。

2010年度オープン		
東名	EXPASA足柄	上り・下り
名神	EXPASA多賀	下り
東名阪	EXPASA御在所	上り・下り
2011年度オープン		
東名	EXPASA海老名	上り
中央道	EXPASA談合坂	下り

おもてなしの心でお客さまをお迎えするサービスエリア・コンシェルジュ



地場産品を充実させた「関の刃物」コーナー



東海北陸道 関SA(上り)

展望ウッドデッキから諏訪湖の絶景を独り占め



中央道 諏訪湖SA(上り)



伊勢道 安濃SA(上り)

伊勢神宮の参道の街並みをイメージした「安濃横町」



中央道 EXPASA談合坂(下り)

# 大規模災害に向けた取組み

NEXCO中日本グループでは、東日本大震災を受け、業務継続計画(BCP)を見直して防災体制をさらに強化し、お客さまに、安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供します。

東北地方・関東地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災では、高速道路ネットワークの整備や耐災性・補完性確保の重要性を改めて認識しました。NEXCO中日本グループでは、この未曾有の大震災の教訓を活かし、「東海・東南海・南海地震」や「首都直下型地震」などに備えるため、業務継続計画(BCP)の見直しを行い、大規模な災害が発生した場合にも国民生活に不可欠な交通の確保をめざして防災体制のさらなる強化に取り組んでいます。

## 業務継続計画(BCP)

### ■ BCPの全社展開

東日本大震災の教訓を活かし、大規模地震や大津波・原子力発電所などによる災害を想定した業務継続計画(BCP)を全社展開し、グループ一体となった防災体制をさらに強化しました。また、大津波を想定した高速道路を走行中のお客さまへの情報提供や、休憩施設のお客さまの避難場所への誘導方法など、詳細な検討を行いました。

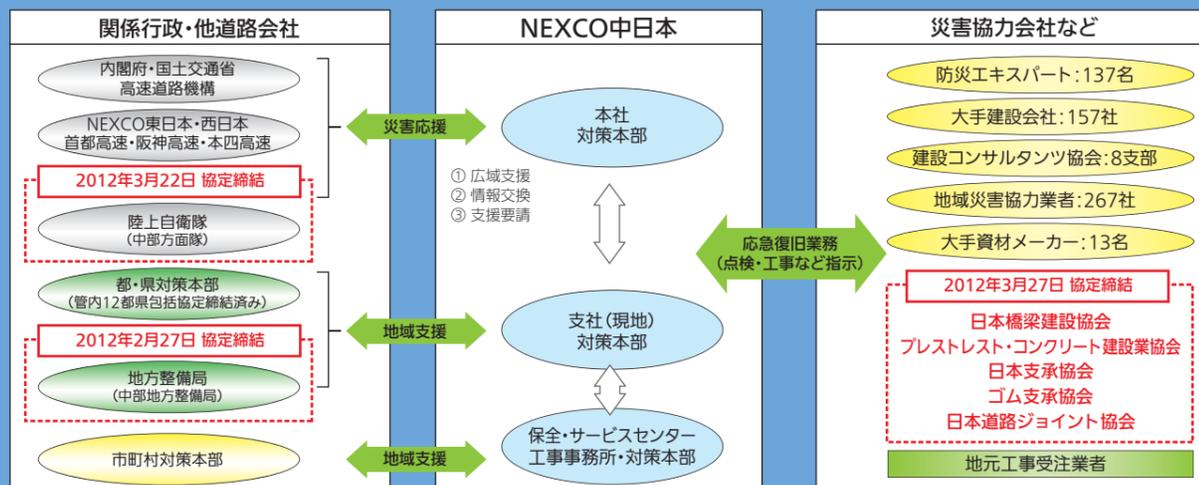


太平洋沿岸部を通過する東名高速道路

### ■ 応援協力体制の構築

大規模災害時において、重要なインフラとなる高速道路を活用して速やかに東西交通が確保できるよう、陸上自衛隊中部方面隊、国土交通省中部地方整備局、橋梁関係5協会と相互応援

協力に関する協定を締結し、応援協力体制を強化しました。今後もさらなる体制強化に向け、他の関係機関との協定締結並びに連携強化に向け取り組んでいきます。

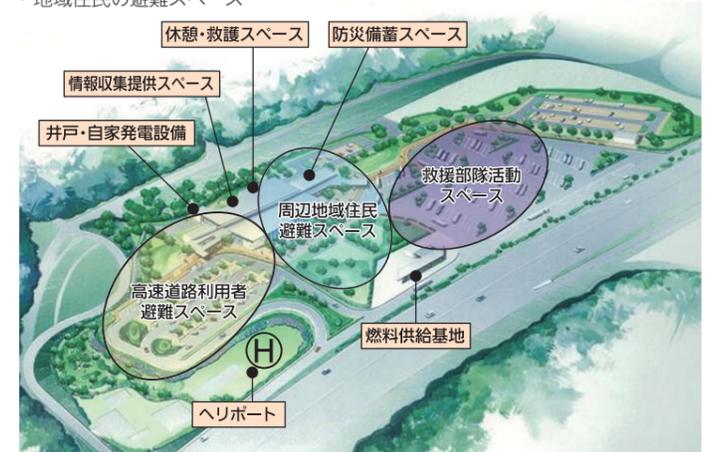


## 休憩施設の防災拠点化

東日本大震災において、道の駅が防災の拠点として有効利用された事例を受け、高速道路の休憩施設についても防災拠点化を進めます。災害の発生に伴い、各被災地の復旧作業にあたる自衛隊や消防、警察などの支援部隊の進出拠点としてだけでなく、高速道路をご利用になっているお客さま、周辺にお住まいの皆さまの一時避難場所として、必要となる施設及び水や食料などの非常用備蓄品の検討・整備を進めていきます。

### 防災拠点のイメージ

- ・進出拠点活動スペース
- ・高速道路利用者避難スペース
- ・地域住民の避難スペース



### ■ 津波による被害想定の見直し

中央防災会議で示されていた3連動地震に伴い発生する津波予測を東日本大震災における津波被害を踏まえて見直しを行い、当社独自の被害想定を行いました。津波被害を受けると考えられる休憩施設や料金所、高速道路本線に関し、ご利用になるお客さまの安全の確保や各施設の機能維持のため、設備の見直しや誘導方法の検討を行いました。

### ■ 通信手段の強化

大規模災害発生に伴い、情報ネットワークの寸断や一般回線による通話の発信制限などにより、現地からの情報が入手できないおそれが想定されるため、災害時優先電話及び衛星携帯電話を追加配備しました。

### ■ 原子力被害対応

北陸自動車道が原子力発電所から概ね10km圏内、東名が20km圏内に位置しているため、原子力災害の発生に備え、料金所や休憩施設において、原子力防災備品の配備を完了しました。また、お客さまが被害想定区域の対象となる休憩施設や料金所から避難されることを想定した行動計画書を策定しています。

### ■ 電力供給不足への対応

電力不足に対する政府方針を受け、夏季の電力需給バランスを考慮した道路照明の消灯、サービスエリアにおける一部機器の使用制限や社屋内の節電と省エネルギー化に取り組みました。また、冬季にはロードヒーティングの効率的な運用を行いました。2012年度においても社会情勢などを踏まえて、安全・安心を考慮したうえで引き続き取り組んでいきます。

### ■ ライフラインの長期停止に備えた備蓄強化

大規模な災害発生に伴い、電気・ガス・水道といったライフラインの停止により、災害対策本部が運営できなくなることを防ぐため、グループ会社を含めたグループ全体での備蓄の強化、備蓄燃料タンク容量の増加を進めています。

### ■ 道路管制システムの相互バックアップ

道路管制業務の相互バックアップを可能とするシステムを構築しています。情報提供装置などの高速道路施設の運用に必要な道路通信ネットワークについて、災害によるシステムダウンに対応するべくバックアップ機能を強化し、高速道路機能の確保を図っています。

### ■ グループ一体となった防災訓練

災害が発生した場合、応急活動が迅速かつ適切に行われるよう、グループ会社などの幅広い参加により防災訓練を実施しています。防災訓練を通じて、防災体制の実効性を確認・検証するとともに、一人ひとりの防災に対する意識を高めています。

2011年度は9月1日の「防災の日」に、グループ一体で総合防災訓練を行いました。

また、3月7日～9日

には、すべての休憩施設及び料金所においてお客さま対応訓練を実施するなど、お客さまの安全を第一に考え、地域と一体となった防災体制の強化を図りました。



お客さま対応訓練(広域避難場所へ案内)

# CSRマネジメント

NEXCO中日本グループは、CSRをはじめ、リスクマネジメントやコンプライアンスを推進する体制を構築し、ガバナンスの充実に努めています。

## NEXCO中日本グループのCSR活動

本業を通じて的確に社会の期待に対応することが私たちのCSR活動です。当社グループは、経営理念を实践し、私たちの役割を果たすことによって、持続可能な社会づくりに貢献します。

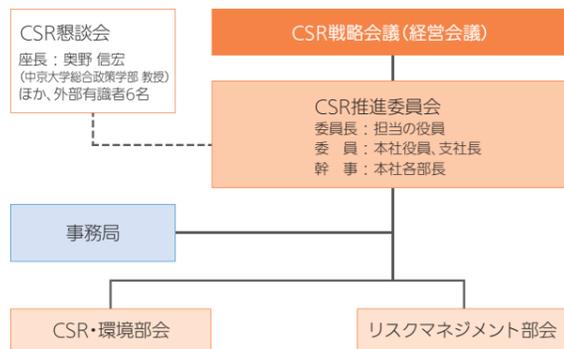
### 本業を通じたCSRの実践

各活動の目標設定とKPI管理の徹底



## CSR推進体制

当社では、社長が議長を務める「CSR戦略会議」のもと、CSR推進委員会を設置し、当社のCSR活動を戦略的に展開していく体制を構築しています。



## 調達活動を通じたCSRの実践の推進

お取引先の皆さまに私たちのCSR活動へのご理解とご協力をいただき、よきビジネスパートナーとして、お取引先の皆さまと一緒に事業活動を展開するため「NEXCO中日本グループ お取引先CSR推進ガイドライン」(2012年1月4日公表)を定めました。自らはもとより、お取引先に対する啓発に努め、地域・社会の持続的な発展のために企業としての社会的責任を果たしてまいります。

## コーポレートガバナンス

当社では、2006年5月に「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」を策定し、この方針に基づき、各種内部統制システムを整備しています。

定例の「取締役会」を月1回開催し、重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について決定するとともに、取締役の職務執行状況を監督しています。

また、2007年6月からはグループ全体に影響する全社執行方針の決定・情報共有、グループ全体として共有すべき情報の伝達、確認などのため、全取締役、執行役員などに、グループ会社の社長などを加えた、グループ全体の会議を定期的で開催しています。なお、監査役はこれらすべての会議に出席し、社内全般の業務執行を監査しています。

## リスクマネジメント

当社グループでは、事業活動に関わるさまざまなリスクに適切に対処するため、内部統制システムの一つであるリスクマネジメントシステムを整備し、グループ全体でリスクマネジメントシステムの確実な運用を図っています。

## コンプライアンス

当社グループがめざす企業像である「世界一の高速道路会社」の実現に向けてコンプライアンスを徹底しています。高い倫理観に根ざした企業文化へと変革し、社会から信頼される企業グループを実現するため、組織のガバナンスと社員一人ひとりの立場・役割に応じたきめ細かな教育を柱とするコンプライアンス行動計画を策定し、グループ全体でコンプライアンス意識の向上に取り組めます。

### コンプライアンス行動計画における主な取り組み

- ・職場ごとに意見交換を行う「コンプライアンスタイム」を実施するとともに、eラーニング、理解度チェックテストなどを継続して行うことにより全社員共通のコンプライアンス意識を高めます。
- ・所長の任用にあたっては、任用前後の研修を強化して管理者としての自覚を高めます。
- ・社員の家族向けリーフレットを配布し、家族も含めたコンプライアンス意識向上策を実施します。
- ・支社の幹部など、コンプライアンス推進の核となる社員に対する教育を拡充するとともに、法令改正の情報を収集・配信するなど、コンプライアンスを推進するためのシステムを充実します。

# 社会的報告

# お客さまとともに

NEXCO中日本グループは、「お客さま第一」を徹底し、お客さまが「安全・安心・快適」にご利用いただける高速道路空間を創出するための取組みを推進しています。

## お客さま第一経営

「道を通じて感動を 人へ、世界へ」というコーポレート・スローガンのもと、お客さま第一経営の実現のため顧客満足度指数(CSI)に加え、新たな指標として感動指数(CDI)を策定しました。お客さまの期待を超え、感動を呼ぶサービスを提供し、感動と信頼のNEXCO中日本ブランドをめざします。

お客さまの声を真摯に受けとめ積極的に改善・改修を行うとともに、完了までの目標日数を7日以内と定め、迅速な対応を心がけています。また、サービスエリア・パーキングエリア及び料金所での接客品質の向上や渋滞緩和対策を促進しています。

また、より多くのお客さまからのご意見を事業に反映するため、サービスエリアのハイウェイポストを増設するとともに、記入用紙の郵便ハガキ化やハイウェイポスト@携帯メールの活用など、「どこでも」「気軽に」ご意見をいただく仕組みづくりを進めています。

さらに、お客さまセンターにおいては、すべてのお客さまからのお問合せに対応できるように、季節や曜日特性を踏まえた適切な人員の配置や対応処理時間の短縮、オペレーター研修・教育の充実により、2010年度は平均90%であった着信率が2011年度は94%に向上し、対応品質は、2015年度の目標70点に対し66点となりました。

**お客さまの声に対する取組み**  
<http://www.c-nexco.co.jp/contact/voice/>

## 交通事故対策

お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供するため、事故多発箇所や重大事故発生箇所における対策の実施、逆走事故防止対策などを進めています。また、事故防止には、ドライバーの皆さまの協力が不可欠であると考えており、高速道路の安全走行ガイドの配布や交通安全セミナーの実施など安全啓発活動に取り組んでいます。



薄層舗装 逆走防止装置

## 交通安全の啓発活動

高速道路の「要注意箇所」や安全走行のアドバイス、各種事故対策などをご紹介した「気をつけガイド」をお客さまに継続して配布しています。また、新たに「高速道路マナーガイド」を作成しお客さまに配布するとともに、交通事故の発生状況や安全走行のポイントなどをお客さまに直接お伝えする交通安全の学習会「交通安全セミナー」を2011年度までに約11万名の方々に受講いただきました。また、2011年度の死亡事故の傾向を踏まえ、トラック協会との協働による安全啓発や各種情報提供機器による高速道路上での人対車両の事故に対する啓発などを行いました。

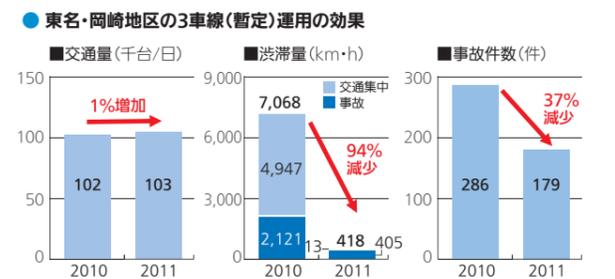
## 交通渋滞対策

安全・渋滞対策の推進のため、2車線の一部区間を3車線化する暫定運用や、付加車線の設置を行うとともに、既存高速道路ネットワークの機能強化の推進のため、LED標識による情報提供、モバイルを活用した渋滞予測の配信などを実施し、渋滞緩和に向けた取組みを行っています。

渋滞量が全国最大規模の東名・岡崎地区の渋滞・事故対策として、2011年10月21日より新東名(愛知県区間)開通までの間、現在の2車線を暫定的に3車線とする運用を開始しました。運用後、この区間の交通量は微増でしたが、渋滞は大幅に減少し、事故も減少しました。



運用前 運用後



■期間  
2011年[上限1,000円終了後]: 10月22日(土)~3月18日(日)の149日間  
2010年[上限1,000円適応中]: 10月23日(土)~3月20日(日)の149日間

## お客さまとともに

NEXCO中日本グループは、「お客さま第一」を徹底し、お客さまが「安全・安心・快適」にご利用いただける高速道路空間を創出するための取組みを推進しています。

### 次世代高速道路空間の創出

新東名リーディングプロジェクトにおける実証実験を踏まえ、「世界をリードする高速道路システム」を構築しています。

#### ●新東名リーディングプロジェクトの概要

視点	長期目標(新東名の全線開通時(2020年)以降)
安全・安心の実現	・交通事故死亡者限りなくゼロをめざす ・交通事故件数、負傷者数半減をめざす 特に、大型車に起因する悲惨な事故撲滅をめざす
環境への配慮	・二酸化炭素排出量半減をめざす
多様なライフスタイルの実現	・SA・PAなどでのユニバーサル対応、環境保全※1、情報アクセス完備※2をめざす ※1 太陽光発電の導入など ※2 無線LANの全施設整備(本線含む)など
活力ある社会実現	・幹線部の自動車貨物輸送コスト半減をめざす ・安定した速達性、定時性確保をめざす



トイレのロビー

### 新たな事業領域への挑戦

当社グループでは、お客さまに高速道路をより楽しくご利用いただくためのサービスとして、旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、地域・社会に貢献できる新たな事業領域に挑戦しています。

「資源の3R(リデュース、リユース、リサイクル)」推進の一環として、高速道路で使用された「横断幕」を使い、ゴルフ関連商品を開発しました。また、名古屋市内の専門学校と連携し、当社が提供した「横断幕」でトートバッグなどを製作し、学校の文化祭で販売のうえ、収益金を東日本大震災の義援金として寄付しました。



専門学校の生徒による作品

ゴルフ関連商品

また、グループ内で培った技術・ノウハウ・サービスを活用し、コンクリート構造物を中心に点検・補修など総合メンテナンス業の展開や、国や自治体などが管理する道路の運営管理業務を支援するなど、国内外の道路や他のインフラにも活用できる新たなビジネスモデルを構築します。



中日本高速技術マーケティング(株)が販売する「アルファテック380」は、コンクリートのひび割れなどの補修用接着剤です。塗布するだけで浸透するため、シーリングして注圧をかける必要がありません。

### 「百年道路」計画の着実な実行

国民生活に必要な不可欠な高速道路を健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産を継承するため、対症療法的な「事後保全」から「計画保全」への転換を推進しています。

「百年道路」計画の着実な実行に向けて、ダブルネットワークを活かして、橋梁や舗装の大規模修繕を計画的に行います。

また、施設設備の計画的な補修を行い、設備の延命化と効果的な更新を行います。

### 重要交差点の対応

道路の異常を早期に発見し、安全で快適な走行環境を確保し、お客さまへの被害を未然に防止するため、道路構造物や施設設備(道路照明など)の点検を日常的、定期的に行っています。

2012年1月に発生した橋梁付属物の一部垂れ下がり事故により鉄道の運行に重大な支障を及ぼす事態となったことから、特に鉄道との交差点所や並行箇所付属物点検を徹底し、今後2年以内に点検を完了するよう鉄道事業者と協議・調整を進めています。

### 感動を呼ぶ高速道路空間をめざして

お客さまの多様なニーズにお応えし、「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまの期待を超える感動にあふれた高速道路空間の創造をめざします。

お客さまの期待を超えた清潔で快適なお手洗い空間の実現をめざし、お手洗いの美化や女性トイレ、多機能な洋式トイレの増設を積極的に進めています。さらにお手洗いを快適にご利用いただけるよう設備故障への迅速な対応や心のこもった清掃に努めるとともに、情報収集や待合せができるロビー空間の整備を行います。

## 地域社会とともに

NEXCO中日本グループは、産業・観光の発展など地域社会・経済へ貢献するとともに、災害時の支援など地域との連携を強化しています。

### 地域に密着したサービスエリアづくり

サービスエリア周辺のより多くの地域の皆さまにサービスエリアをご利用いただけるよう「ぶらっとパーク」の整備を進めるとともに、サービスエリアが地域交流や地域活性化の拠点となるよう地域に根ざした店舗や地域特産品の開発・販売などを進めています。



EXPASA 談合坂(下り)

NEOPASA 浜松(下り)

また、地域との交流イベントとして、サービスエリアで販売している地域に根ざしたグルメメニューを市中で食べていただく「ハイウェイぐるめまちなかグランプリ」を名古屋市内で、「ハイウェイまちなかラーメンフェスタ」を東京都内で開催しました。

さらに、東名 富士川SAでは、「ふじのくに地産地消週間」にあわせて、優良生産者による直売「農匠マーケット」を開催するなど、地域との連携を深めながら、地産地消を推進しています。



農匠マーケット(富士川SA)

ハイウェイまちなかラーメンフェスタ



ハイウェイぐるめまちなかグランプリ

### 社会貢献への取組み

当社グループは、地域社会の一員として、地域の活性化や福祉に貢献する活動を地域の皆さまとともに進めています。

#### ■新東名沿線での農山村活性化の取組み

さらなる「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」を進めるため、2011年度より、「NEXCO中日本ならでは」の新たなCSR活動として、新東名のサービスエリアの近隣地域3地区で農山村の課題解決のため、地域の方と当社グループ社員が協働で農村整備作業などを行う活動を開始しました。

2011年度は、3地区で合計9回の活動を行い、延べ約160名のグループ社員が参加しました。休耕地での草刈作業や急な斜面での植栽作業、みかんの収穫作業など、農山村の課題解決に取り組みました。



植栽作業

#### ■障がい者団体への就労支援の取組み

当社グループでは、地域や福祉への貢献として、障がい者団体の就労支援に積極的に取り組んでいます。

東京支社御殿場保安・サービスセンターでは、静岡県御殿場市の福祉団体と連携し、「CS向上ワッペン」の制作を委託しました。障がいをもつ皆さまに一生懸命作っていただいたワッペンを2011年8月の交通混雑期に当社グループ社員が着用し、CS向上をめざしました。

八王子支社甲府保安・サービスセンターでは、2011年6月、山梨県甲斐市の福祉団体と連携し、中央道 双葉SA内のハーブガーデンの除草作業を委託しました。

名古屋支社羽島保安・サービスセンターでは、2011年6月、岐阜県養老町の福祉団体と連携し、名神高速道路 養老SA内の花壇の除草作業を委託しました。



双葉SAの除草作業



養老SAの除草作業

## 地域社会とともに

NEXCO中日本グループは、産業・観光の発展など地域社会・経済へ貢献するとともに、災害時の支援など地域との連携を強化しています。

### 災害発生時における迅速な復旧・救援対応

災害発生時の被害拡大を防ぎ、早期に道路交通を確保するために、グループ一体で防災体制を強化するとともに、国や自治体などと緊密な連携を図りながら、迅速な復旧・救援に向けた対応を行います。

#### 異常降雨時の交通確保

異常降雨による災害が発生した場合は、安全確保のため交通規制を実施し、早急に応急復旧を行い、速やかに交通を確保します。

#### 災害対応事例1

2011年7月20日に台風6号による大雨のため中央道 藤野PA(上り)付近で切土法面が崩落しました。迅速に応急復旧工事を開始し、約16時間後には通行止めを解除しました。



法面崩落状況  
中央道 藤野PA(上り)付近

#### 災害対応事例2

2011年7月25日に異常降雨により東名阪自動車道(東名阪道) 四日市JCT(上り)付近で切土法面が崩落しました。迅速に応急復旧工事を開始し、約24時間後には通行止めを解除しました。



法面崩落状況  
東名阪道 四日市JCT(上り)付近

#### 冬期の確実な交通確保

2011年度の雪による通行止めは173時間となり、2010年度の230時間と比べ、約2割減少しました。

雪による通行止めや交通規制を最小限に留めるために、道路に積もった雪を取り除く除雪作業、路面が凍結するのを防ぐための凍結防止剤散布作業などの雪氷対策を行い、冬期の安全で確実な交通を確保します。

また、大雪が予想される時には、大雪により走行不能となった車両を早期に救出するためにレッカー車両を事前に配備するなど、対策を強化しています。



除雪作業状況

また、ドライバーの皆さまにも冬用タイヤの装着や安全走行にご協力いただくために、広報活動による安全啓発を行うとともに、気象・道路状況に関する情報提供を行っています。



トラクターショベルによる  
大型車の救出状況

#### 被災地への支援

##### 福島県相馬郡新地町への復興支援

福島県相馬郡新地町より、現地の復興支援の要請を受け、当社グループ一体となり、延べ約100名が、2011年9月5日から10月20日までの約1カ月半の間、浸水地域の町道などの沿道の草刈り、側溝の土砂やガレキの撤去などを行いました。



草刈りの状況

##### 松本市への災害復旧支援

2011年6月23日の豪雨による土砂流出により、長野県松本市の県道上高地公園線が通行止めとなりました。

当社では、長野県の要請を受け、上高地地区に取り残された観光客の早期避難のため、県道に流出した土砂や流木の撤去作業を行いました。



災害復旧支援作業状況

##### 三重県南牟婁郡紀宝町への給水支援

2011年9月に上陸した台風による異常降雨により、甚大な被害が発生した三重県からの要請を受け、三重県南牟婁郡紀宝町に、給水用の車両5台を9日間派遣し、給水支援を行いました。



紀宝町における給水支援状況

## 国際社会との関わり

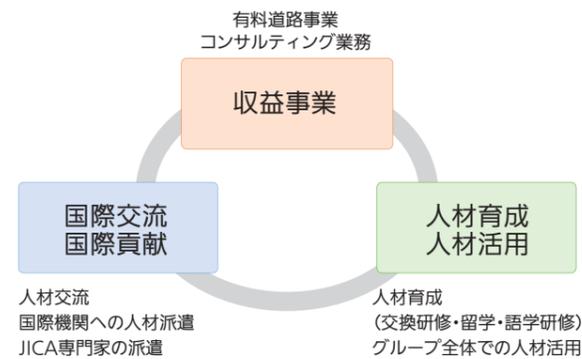
NEXCO中日本グループの培ってきた建設・維持管理などに関する技術・ノウハウを活用して、海外での事業を積極的に展開することにより、世界の道路整備に貢献します。

### 海外への展開

当社グループがこれまで蓄積した高速道路に関するさまざまなノウハウ・技術力を、国内だけでなく、海外にも展開していきたいと考えています。海外道路事業者との情報ネットワークの強化や積極的な国際貢献を行うとともに、グループ全体の人材を活用し、アジア地域を中心とした海外の道路事業へ参画していきます。

#### NEXCO中日本の海外事業展開方針

3つの要素を柱として海外事業を展開しています。



#### 収益事業

ベトナムで有料道路事業を実施すべく、現地パートナーと協議を進めています。

また、コンサルティング業務は、2011年度にベトナムでの案件を5件受注しました。今後も、当社グループのもつマネジメント能力や技術力を活かし、有料道路事業への参画やコンサルティング業務を進めていきます。



ベトナム カントー橋技術移転アドバイザー業務

#### 人材育成・人材活用

海外事業で活躍する人材を育てるため、海外の道路機関との交換研修、留学、語学研修、セミナー、社内TOEICテストなど、語学力の向上とグローバルな視点をもった社員の育成に努めています。



社内でのTOEICセミナー

### 国際交流・国際貢献

海外道路事業者との関係強化を図るとともに、情報収集や相互的人的交流を深めています。国際会議・セミナーなどへの参加やJICAなどを通じた各国からの研修や視察を受け入れることにより情報発信を行っています。また、当社社員を高速道路専門家として各国に派遣することで、国際社会に貢献しています。

#### 各国からの研修・視察の受入れ

2011年度は24カ国の方々当社建設や維持管理の現場、サービスエリアなどの視察に訪れました。

##### 主な視察受入れ(2011年度)

相手方	時期	視察内容
ベトナム 交通運輸省	2011年6月	新東名建設現場 ほか
フランス 国土整備省 ほか	2011年11月	東名、サービスエリア
エチオピア 道路公社 ほか	2011年12月	桑名保全・サービスセンター管内



ベトナム交通運輸省



エチオピア道路公社

#### 途上国への専門家派遣

高速道路の整備が遅れている発展途上国に社員を派遣し、計画、設計、施工、維持管理などについて専門的なアドバイスを行っています。

2011年度は計9名の社員がそれぞれの国で活躍しました。

対象国	期間	派遣先
スリランカ(1名)	2008年5月～2011年5月(3年)	道路開発庁
ベトナム(1名)	2010年5月～2012年5月(2年)	交通運輸省
エチオピア(1名)	2010年3月～2013年2月(3年)	大使館
キルギス(1名)	2011年5月～2013年5月(2年)	運輸通信省
スリランカ(2名)	2011年12月(約1カ月)	道路開発庁
ベトナム(2名)	2012年1月(約1週間)	交通運輸省
スリランカ(1名)	2012年2月(約1カ月)	道路開発庁



スリランカ道路開発庁で交通管理について説明する当社社員

# 社員とともに

NEXCO中日本グループは、「世界一の高速道路会社」を実現するために、厳しい環境の中でも成長し続ける変革への強い意志をもった社員を育成します。

## 人材育成の充実

“社員は会社にとって、最大の『財(たから)』である”との考えのもと、当社の求める社員像に基づき、リーダーシップを発揮することで、環境変化への感度が高く、自律性を発揮できる「強い現場力をもった社員」を育成します。OJTを基本に、階層別・専門研修などの集合研修や自己啓発などのOFF-JTと連携し、社員がめざすべきキャリアの実現を支援しています。

また、海外機関や他企業への派遣研修、博士号取得補助、資格取得補助など、社員の能力や専門性をより高めるための支援を拡充しています。

## ワークライフバランスの促進

仕事と家庭の調和、社員一人ひとりのライフステージに応じた時間の充実と、次世代育成支援のため、さまざまな取り組みを行っています。

仕事と家庭の両立を推進し、次世代の育成を支援するため、時間外労働の削減や休暇取得の促進に取り組んでいます。なお、2011年度の育児休業取得者は28名となっており、そのうち男性は8名でした。

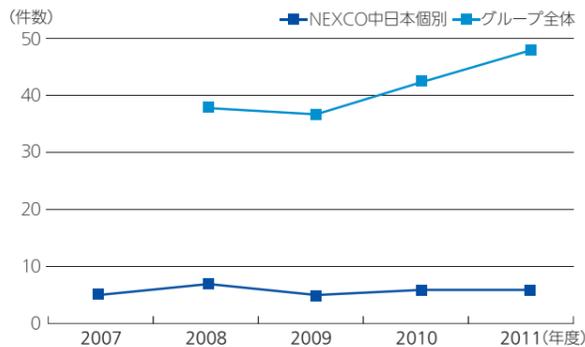
また、男性社員の育児休業や年休取得促進などを定めた「次世代育成支援行動計画(2008年6月策定)」を達成し、くるみんマークを取得しています。(2010年7月:愛知県労働局認定)



## 労働災害ゼロをめざして

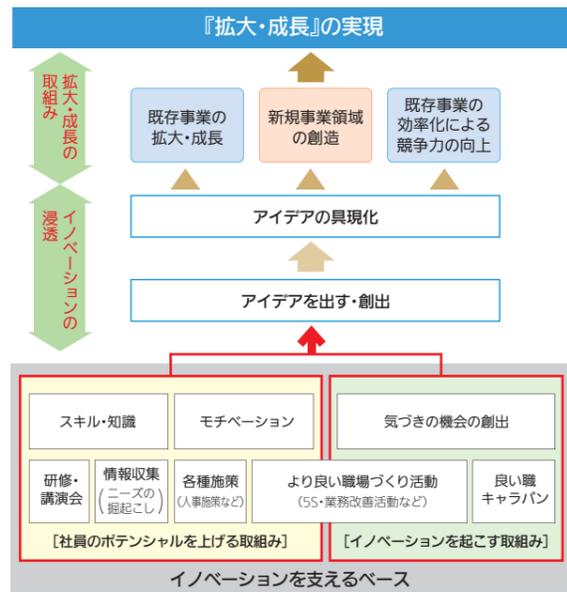
労働災害ゼロをめざして、安全衛生に関する委員会を定期的に開催し、職場環境の安全確認や労働災害の分析を行い、その結果を安全対策に反映しています。

### 労働災害事故件数



## イノベーションの推進

企業が拡大・成長していくためには、社会情勢の変化に的確に対応し、企業として変化・変革していくことが必要であり、イノベーションをさらに加速させることが不可欠であると考えています。当社グループのさらなる飛躍のため、社員一人ひとりからのイノベーションを推進しています。



## イノベーション・ポスト

社員が気軽に提案できる創意工夫制度として、2010年10月に「イノベーション・ポスト」を創設しました。2011年度の提案件数は、目標1,000件を大きく上回る2,123件となり、ポストでの提案をきっかけに具現化したものが16件ありました。

2012年度以降も提案件数のさらなる増加をめざすとともに、社員アイデアの具現化に取り組めます。

### 具現化した主な事例

- ・車両管理業務を一括して行う会社の設立
- ・iPadを利用したコンシェルジュサービス
- ・ドライブルートコンパス(料金ルート検索)の表示改善
- ・過去記事閲覧のため社内報・グループ報を電子掲示板に掲載
- ・印紙の貼付もれ防止対策



iPadを利用したコンシェルジュサービス

## 社員の声 NEXCO中日本グループ社員の日頃の業務におけるCSRへの取り組み

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株) 彦根事業所

苗田 弘子



お客さまからの「ご苦労さま」「ありがとう」「体に気をつけてがんばってください」といただくお心づかいに、「ありがとうございます。お気をつけて行ってらっしゃいませ。」と答えています。私の仕事は、きれいがあたりまえのトイレ、休憩施設の清掃作業と、お客さまと直接接するエリアキャストを担当しています。お客さまに気持ちよく使っていただきたい、次も私たちのサービスエリアで休んでいただきたいと思いを込めて、お客さまの励ましの言葉と、一緒に働いているメンバーと、周りの関係者の力を借り、安心して快適に過ごせるエリアをめざし日々がんばっています。

中日本ハイウェイ・パトロール東京(株) 新東名富士基地 主任

西川 清人



2012年4月14日、待ちに待った新東名が開通しました。私は開通当日の通り初め先頭役と初の巡回を担当。沿道から多くの方々の手を振る姿や、NEOPASAがあっという間に満車になるなど、「新東名」に対する期待の大きさが感じられ、身が引き締まりました。私は日頃から、必ず大きな声で笑顔で挨拶するよう心掛けています。最初の挨拶で相手の方への印象を大きく変えると感じているからです。世界一の高速道路会社をめざし、今まで以上に気持ちのよい挨拶で、すべての人に好印象を与え、不安を取り除き、信頼される交通管理隊をめざしていきます。私たちが、新東名、東名の安全を守ります。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株) 飯田道路事務所 土木管理課長

勝野 正史



私たちエンジニアは、高速道路の道路保全・点検業務を実施しています。安全で安心な高速道路を維持していくためには、確実な点検、適切な補修計画及び施工が必要となります。私たちは常に路面や構造物の状態に目を配り、損傷状況を把握し、補修・補強などの対策方法を提案しています。今後も、お客さまが安全で安心してご利用いただける高速道路空間の提供と、快適な走行の実現に向けて、日々高速道路の保安全管理業務を進めていきます。

NEXCO中日本サービス(株) NEXCO中日本お客さまセンター

服部 邦加



私たちオペレーターは、お客さまの顔は拝見できませんが、お客さまからの電話や電子メールに対応する、お客さまと接する最前線にいます。私たちは、どのオペレーターが対応しても、迅速に、そして正確に情報を提供し、お客さまに満足していただき、感動を与えることができるよう日々頑張っています。私たちは、NEXCO中日本グループの一員として、これからも「お客さまを第一にする」という基本姿勢のもと、さらなるお客さまサービスの向上に努めていきたいと考えています。

中日本エクスプレス名古屋支店 EXPASA多賀オフィス 総支配人(兼)羽島・彦根地区 マネージャー

立山 秀康



エリアで働くマネージャーとして心掛けていることは、まず私たち自身が現場で働くスタッフに対して「笑顔で挨拶」ということです。お客さまの状況や店内外の環境を確認しながら、店頭にいるスタッフの方々に明るく笑顔で「おはようございます」「お疲れさまです」と挨拶することで、スタッフの方々はお客さまに「お招き」と「おもてなし」の心に笑顔を添えた接客を実践し続けてくれると信じています。また、EXPASA多賀では地域交流の取組みとして「フリーマーケット」を昨年から月1回の頻度で開催しており、今ではそれを目当てに地元のお客さまがエリアにお越しいただけるイベントのひとつになっています。今後も、サービスエリアを地域の拠点として交流を促進していきたいと考えています。

中日本エクストール名古屋(株) 亀山料金所 副所長

岸田 美穂



お客さまを大切に基本姿勢である「お招き」と「おもてなし」の心をもって、お客さまに接することができるように、料金収受技能コンテスト(マイスター)やサービス接遇実務検定資格を積極的に取得し、正確かつ丁寧な収受はもちろんのこと、ETCトラブルや道案内などで不安を感じられているお客さまに安心してご利用いただけるよう、日々笑顔でお客さま対応を行えるよう心掛けています。また、2012年2月より副所長という大役を務めさせていただき、チーフやサービススタッフの意見を十分取り入れながら、料金所長とともに明るくチームワークの良い元気な料金所をめざして奮闘中です。これからもお客さまからより一層の信頼と好感をいただけるよう努力していきます。

# 環境方針

NEXCO中日本グループでは、環境方針を定め、持続可能社会の貢献に積極的に取り組んでいます。

## 環境方針

中日本高速道路株式会社は、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

当社の事業は、多くの方々のご協力とお客さまにご利用をいただき、広く環境と関わりを持っています。このため、当社の事業活動を通じて地球温暖化の抑制や、資源の3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用))の推進、地域環境への配慮に取り組めます。

これらの実現のため、環境マネジメントシステムを構築し、環境の目的・目標を明らかにし、環境法令及び当社が約束した事項の遵守ならびに環境影響の予防に努め、継続的な改善に取り組めます。環境マネジメントシステムの運用に当たり、その基準、手順等を定めて文書化し、定期的に見直します。

当社は、世界一の高速道路会社をめざして、環境に関わる活動や技術開発に挑戦し、次に掲げる経営上の重点施策等を実施しています。

### <環境に関わる経営上の重点施策>

- 地球温暖化の抑制**  
高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和、省エネルギーなどの取組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。
- 資源の3R推進**  
廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路(健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産として継承する高速道路)」計画の実施などにより環境負荷を低減します。
- 地域環境への配慮**  
地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード(自然環境に配慮した道)」づくりを推進します。

この環境方針は、全ての従業員に周知するとともに公開します。

2011年4月28日  
中日本高速道路株式会社  
代表取締役会長 兼 社長CEO 金子 剛一

## CO<sub>2</sub>排出削減の目標

NEXCO中日本グループは、「環境・持続可能社会への貢献」をCSR重点領域の一つとして掲げ、高速道路ネットワークの整備や「百年道路」計画の推進、資源の3Rなどのあらゆる事業活動を通じて環境負荷の低減に貢献します。

短期目標を以下のとおり設定しています。

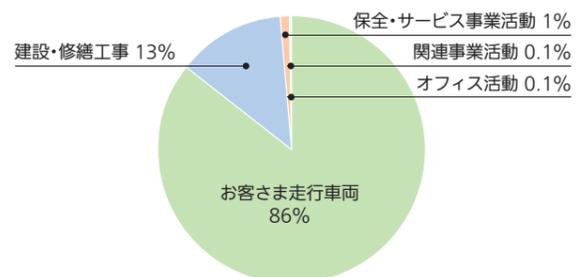
指標	単位	2011年度目標	2011年度実績	2012年度目標
CO <sub>2</sub> 排出量 (オフィス活動)	t-CO <sub>2</sub>	8,360	7,112	7,041
CO <sub>2</sub> 排出量 (保・サ事業、関連事業及び走行車両)	t-CO <sub>2</sub> /km	5,241	5,240	5,275

※環境省が公表した2010年度の排出係数で算出しています。

## 高速道路事業に係るCO<sub>2</sub>の排出量

当社の事業活動により排出されるCO<sub>2</sub>は、2011年度に約1,060万となりました。そのうち、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるCO<sub>2</sub>が約86%を占めています。

### ●要因別CO<sub>2</sub>排出量の割合(2011年度)



## 地球温暖化抑制のための取組み

CO<sub>2</sub>排出削減の短期目標を達成するため、2011年度は以下の項目について取組みを実施しました。

- ・高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制
- ・ETCの普及、利用促進
- ・高速道路法面の樹林化
- ・省エネルギーへの取組み
- ・再生可能エネルギーの活用
- ・「エコ・エリア」の推進



エコ・エリアの推進(EXPASA海老名)

# 地球温暖化の抑制

NEXCO中日本グループは高速道路ネットワークの整備や「百年道路」計画の推進、資源の3Rなどを通じて、地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

## 高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制

高速道路ネットワークの早期整備による自動車交通流の円滑化により、環境負荷物質の排出抑制に取り組んでいます。



【2012年3月25日開通】圏央道 高尾山IC~八王子JCT



【2011年11月19日開通】伊勢湾岸道 東海JCT



【2012年4月14日開通】新東名 御殿場JCT~三ヶ日JCT

## 東名・岡崎地区の3車線(暫定)運用

東名 音羽蒲郡IC~豊田JCT間は交通安全及び渋滞対策の観点から、2011年10月21日より暫定的に3車線運用し、渋滞量を約9割削減しました。



東名 音羽蒲郡IC~豊田JCT間の対策

## 高速道路法面の樹林化

営業中道路での高速道路法面(人工的に作られた斜面)の樹林化(合計1,300ha)を行い、CO<sub>2</sub>の吸収・固定化に努めています。



1995年3月  
2012年4月(施工後17年)

## 高速道路事業における省エネの取組み

新製品の開発・利用、工法の工夫などを通じて、使用するエネルギーを削減し、CO<sub>2</sub>排出量を抑制しています。

### ■電気自動車用急速充電システムの整備

CO<sub>2</sub>排出量の抑制に向け、電気自動車の普及促進に貢献するため、電気自動車の急速充電器を、東名のサービスエリアなど15か所に整備しています。



電気自動車用急速充電システム

### ■交通安全セミナーでのお願い

当社が2007年より実施している交通安全セミナーで走行速度とCO<sub>2</sub>排出量の関係について説明し、安全かつエコ運転をお願いしてCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

## 再生可能エネルギーの活用

1995年に太陽光発電設備を設置して以降、現在では新東名で設置した約1,500kwを含め、約4,000kwの太陽光発電設備を導入しています。



川崎道路管制センターに設置した太陽光発電パネル

## 地球温暖化の抑制

NEXCO中日本グループは高速道路ネットワークの整備や「百年道路」の推進、資源の3Rなどを通じて、地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

### CO<sub>2</sub>排出を抑制し持続可能社会に貢献する「エコ・エリア」の推進

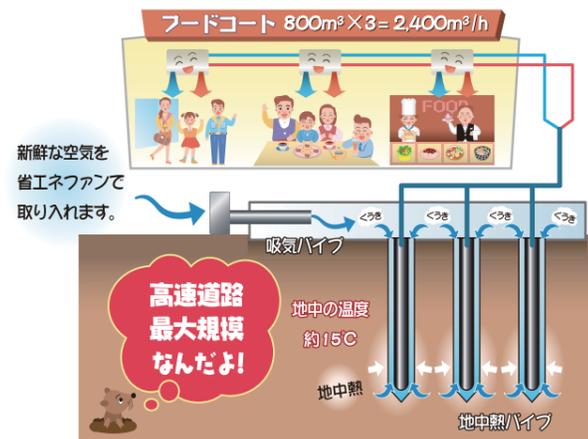
休憩施設では、消費電力の少ないLED照明や、良好な室内環境を保持する複層ガラス・遮熱塗装などの採用によりCO<sub>2</sub>排出を抑制しています。また、リサイクル建材や再生資源を使用して、環境配慮型の「エコ・エリア」を推進しています。

#### スーパーエコエリアの整備

新東名では、各種エコメニューを網羅的に整備した「スーパーエコ・エリア」をNEOPASA静岡(上り)に整備しました。

例えば、地中に埋めた地中熱パイプで熱交換を行い、フードコートに空調に利用しています。また、サービスエリアで発生した廃食油を回収・精製して、当社の維持管理車両のバイオディーゼル燃料に再利用しています。

#### ● 地中熱利用空調のイメージ図



#### ● 新東名 廃食用油のリサイクルイメージ図



#### ■ 緑のカーテンプロジェクト

夏の日差しを遮り、見た目にも涼しい空間を提供するため、アサガオやゴーヤを利用した緑のカーテンをサービスエリアに設置しています。北陸自動車道 有磯海SAと北鯖江PAでは、自治体のグリーンカーテンコンテストで最優秀賞を受賞しました。



## 資源の3Rの推進

NEXCO中日本グループは、「百年道路」計画の実施などにより、廃棄物を抑制し、事業活動から発生した副産物を有効利用して、資源の3Rに努めます。

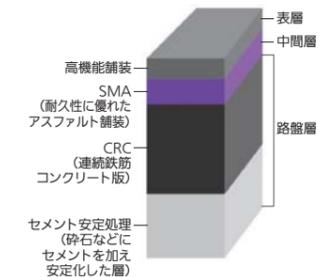
### 道路構造物や設備の長寿命化

高速道路の道路構造物や付属設備は、長期耐久性の確保が重要です。当社では、これらの長寿命化を図ることで、将来にわたる廃棄物を削減します。

#### ■ 舗装の長寿命化

新東名の舗装は、コンクリート舗装の長期耐久性とアスファルト舗装の良好な走行性や補修の容易さをあわせもった、新たな舗装構造(コンポジット舗装)としました。

#### ● コンポジット舗装断面構成

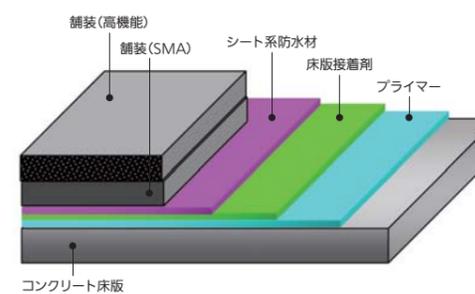


#### ■ 橋梁の長寿命化

新東名の橋梁では、アスファルト舗装面の水がコンクリートに入ることを防ぎ、防水効果が長続きする新たな技術(床版防水工)を採用しました。

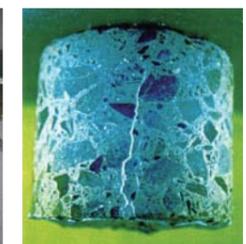


#### ● 床版防水工断面構成



#### ■ コンクリート構造物の長寿命化

コンクリート構造物の補修の際に、耐久性に優れた「ひび割れ浸透接着剤」と「床版補修材」を開発・施工しています。



### トンネル換気設備の再利用

トンネルの換気性の改善により、不要になったジェットファンを分解・整備して再利用しています。



### 発生材のリサイクル

高速道路事業から発生する建設副産物や廃棄物などをリサイクルして、有効に利用しています。

#### ■ 植物発生材のリサイクル

高速道路内で発生した植物発生材(刈草や剪定枝)の9割以上は、ペレットや堆肥などにリサイクルし、有効活用しています。



#### ■ 使用済み通行券のリサイクル

料金所で回収した使用済み通行券を、エコパックとしてリサイクルしてお客さまに配布し、有効利用いただいています。



## 地域環境への配慮

NEXCO中日本グループは、地域環境へ配慮し、動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード(自然環境に配慮した道)づくり」を推進します。

### エコロード(自然環境に配慮した道路)づくり

道路建設は、周辺の動植物の生息・生育基盤の消失、動物の移動経路の分断、生息・生育環境の質的変化をもたらす恐れがあります。このため、当社では、建設に際して地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境の創出を進めて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

#### 生物・生息基盤の消失・縮小を少なくする

新東名の建設予定地で希少種のタヌキノシヨクダイ※が確認されたため、道路構造を変更して改変面積を約6割に縮小し、生息地を保存しました。



保護したタヌキノシヨクダイ  
※ 環境省レッドデータブック 絶滅危惧B類

東海環状自動車道の建設予定地内で確認されたフクロウの営巣地を道路構造を盛土から擁壁に変更し「フクロウ谷」として保全しました。



保全したフクロウ谷  
フクロウの営巣

#### 移動経路の分断を防ぐ

圏央道では、けもの道となるトンネル(高速道路下の通路)を設置し、動物の移動経路を確保しています。



イタチのトンネル利用の様子

#### 生息・生育環境の質的変化を少なくする

新東名では、トンネルの坑口の工事で通常取り除かれる根株や表土を残して施工しました。埋土種子などからの発芽により植物の早期回復を実現しました。



トンネル入口周辺のスギの人口林が広葉樹林に回復する様子

#### 道路空間を活用して生息・生育環境を創出する

新東名 浜松いなさJCT付近で交差する場的場川ではホタルが生息するため、新たにピオトープを整備し、ホタルの生息・生育環境を創出しています。



場的場高架橋下に整備したピオトープ

#### エコロードに対応した地域性苗木

自然環境が豊かな地域を通過する道路の区間では、地域に自生する樹木のタネをあらかじめ採取し、地域性苗木として育て、その地域の高速道路の法面などの緑化に活用しています。



地域性苗木の育成方法

### 騒音対策

事前の騒音予測や沿道自治体からの要請、立地条件に基づき、遮音壁や環境施設帯を設置しています。

名古屋第二環状自動車道では、掘削上部に特殊吸音ルーバーを開発・設置して沿道環境の改善に努めました。



遮音壁の設置状況  
特殊吸音ルーバー

通常の舗装に比べ騒音を低減する効果(2〜4dB)のある舗装を採用しています。



従来の舗装(左)と高性能舗装(右)

### 光源対策

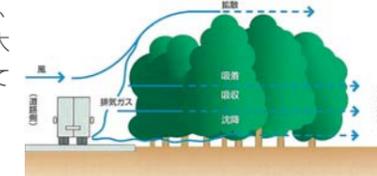
高速道路の照明の光が、周辺の農作物や動植物・天体観測に影響を及ぼす場合は、光源対策を実施しています。



光漏れを防ぐため、低位置照明を採用した例

### 大気汚染対策

高速道路ネットワークの整備などによる走行速度の向上や、法面の樹林化などは、CO<sub>2</sub>だけでなく、NO<sub>x</sub>やSPMの排出削減・抑制に貢献し、高速道路周辺の大気環境を改善しています。



樹林によって大気がきれいになる仕組み(イメージ図)

### 環境コミュニケーション

当社グループでは、お客さまや地域の皆さまなど、社会との環境コミュニケーションを大切にし、地域との連携を進めています。

#### ホテルも棲めるサービスエリア

北陸道 有磯海SA内のせせらぎを活かし、ホテルも棲める環境を地元の方と一緒に整備しました。

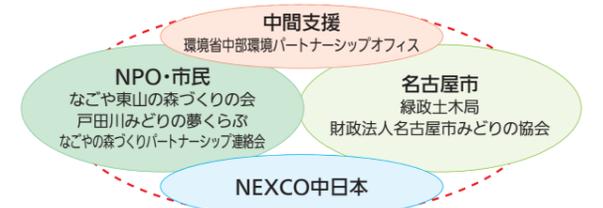


ホテルの幼虫を放流する小学生

#### 地域性苗木育成技術を活かした地域協力

2009年度に名古屋市やNPOと協議会を設立し、当社の緑化技術を高速道路以外でも活かす活動を開始しました。育てた地域性苗木は名古屋市内の公園に植えています。

#### 「郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生態系保全推進協議会」の構成



### 道路景観への配慮

お客さまと地域の皆さまにとって良好な環境を提供できるように、「中日本高速道路景観理念」を制定し、「道路景観」の整備を進めています。

#### 中日本高速道路景観理念

質の高い優れた社会資本を目指すために、次の基本理念により行動する。

- ①高速走行にあたって、安全・安心・快適を感じられる道路空間を構築する。
- ②高速道路の通過する地域を眺め、理解・認識できる新たな景観を創造する。
- ③通過する地域の自然環境や社会環境と共生する高速道路を目指す。
- ④お客さまや地域の皆さまが楽しめる休憩施設空間を創造する。



恵那山を望む(中央道 中津川IC〜園原IC間)

# 環境会計

NEXCO中日本では、環境保全活動に関わるコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、より客観的に評価することを目的に、2009年度より環境会計を導入しています。

## 2011年度環境会計の集計結果

### 環境保全コスト

環境保全コストは事業活動に応じ、事業エリア内コスト、管理活動コスト、研究開発コスト、社会活動コストに分類し、投資額と費用額のそれぞれについて算出を行いました。

その結果、投資額は1,612百万円、費用額は6,288百万円となりました。

分類		投資額 <sup>※1</sup>	費用額 <sup>※2</sup>	
		2011年度		
(1) 事業エリア内コスト	1. 地球環境保全コスト	渋滞対策による地球温暖化防止	467	182
		省エネルギーによる地球温暖化防止	99	31
		植樹(CO <sub>2</sub> 吸収)による地球温暖化防止	105	25
		騒音防止	787	961
	2. 地域環境保全コスト	植栽・緑化対策	142	20
		資源循環コスト(資源の3R)	12	4,862
	(2) 管理活動コスト		0	76
	(3) 研究開発コスト		0	130
	(4) 社会活動コスト		0	1
	合計		1,612	6,288

### 環境保全効果

環境保全効果を、「事業活動から排出する環境負荷に関する指標」「事業活動から排出する廃棄物に関する指標」「その他の指標」に分類して整理を行いました。このうち、渋滞対策によるCO<sub>2</sub>削減量が2011年度は1,526千t-CO<sub>2</sub>になりました。

分類	指標	単位	効果(数量)
			2011年度
1. 事業活動から排出する環境負荷に関する指標(地球環境保全)	渋滞対策によるCO <sub>2</sub> 削減量	千t-CO <sub>2</sub>	1,526
	省エネルギー(オフィス活動含む)によるCO <sub>2</sub> 削減量	千t-CO <sub>2</sub>	7
	植樹(CO <sub>2</sub> 吸収)によるCO <sub>2</sub> 削減量	千t-CO <sub>2</sub>	14
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する指標(資源循環)	建設発生土再利用率	%	98
	アスファルト・コンクリート塊再資源化率	%	99
	コンクリート塊再資源化率	%	100
	建設発生木材再資源化・縮減率	%	99
	建設汚泥再資源化・縮減率	%	99
3. その他の指標(地域環境保全)	高機能舗装化延長	車線・延長(km)	244
	遮音壁の新設延長	m	1,900
	遮音壁の高上げ延長	m	1,000

### 環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果(環境保全対策を進めた結果、企業などの経済的利益に貢献する効果)については、2011年度において発生が回避されたと認められる費用を算定しました。建設発生土などの再利用・再生利用、ガードレール、トンネル設備のリユース、トンネル換気運転制御の改善などにより、2011年度は10,824百万円の経済効果となりました。

分類	2011年度の取組み内容	実質的効果(費用縮減) <sup>※3</sup>	
		2011年度	
地球環境保全(省エネルギー)による経済効果	トンネル内高効率化照明灯具の採用	31	290
	効率的な土運搬	61	
	ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	5	
	トンネル換気運転制御の改善	105	
資源循環による経済効果	自然エネルギーの活用、エコショップの整備・維持管理、オフィス活動	88	10,534
	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減	15	
	建設発生土などの再利用・再生利用	10,264	
	ガードレール、トンネル設備のリユース	135	
	廃食用油、植物発生材(内部利用のみ)のリサイクル	14	
	サービスエリアにおけるリサイクルなど	106	
合計		10,824	

※1「投資額」は、減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上しました。

※2「費用額」は、当社の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上しました。なお費用額には、減価償却資産の減価償却費を含めることを基本としていますが、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構への引渡し資産にかかる減価償却費については計上していません。

※3 建設発生土などの再利用・再生利用に関する経済効果は、当社事業に再利用したことにより発生が回避された資材購入費、処分場への運搬費及び処理費や、他事業に再利用したことにより発生が回避された処分場への運搬費及び処理費を計上しています。

### 環境会計集計の基本的事項

- 集計範囲**  
NEXCO中日本(一部、グループ会社を含む)の事業活動
- 対象期間**  
2011年4月1日～2012年3月31日
- 集計方法**  
環境会計ガイドライン2005年度版(環境省)、NEXCO中日本グループ内での独自の研究成果を参考にして集計

### 複合コストの考え方

事業活動の環境保全コストのうち、複合コストとして認識されるものについては、当社グループ内での独自の研究成果をもとに設定した算定基準を参考にするなど、合理的な基準により按分集計しました。

- 高速道路ネットワーク整備事業、車線拡幅事業  
期待される3便益(走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少)の合計額に対するCO<sub>2</sub>排出削減貨幣価値換算額の比率(0.2%)で按分
- ETCレーン整備、高機能舗装化など  
簡便集計としてコストの25%で按分

# CSR懇談会

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と定期的に意見交換を行っています。

### CSR懇談会委員

座長：奥野 信宏 中京大学 総合政策学部 教授  
委員：青山 佳世 フリーアナウンサー  
亀山 章 NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長  
川勝 平太 静岡県知事

城戸 真亜子 洋画家  
嶋津 八生 NHK解説委員  
服部 力 建築家(株式会社服部都市建築設計事務所 主宰)

※ 敬称略 五十音順

## 第8回CSR懇談会

2011年12月2日、川崎市にある道路管制センターと東名の「EXPASA海老名」をご視察いただき、当社のCSRの取組みや防災への取組みについて意見交換を行いました。

### 委員の皆さまからいただいたご意見

- 東日本大震災を経験して、高速道路がもつ社会性の高い役割が再認識された。高速道路の法面を周辺住民の避難場所にするなど防災への新たな取組みは評価できる。
- 東京・名古屋に道路管制システムの相互バックアップ体制を構築することは、広域圏同士の連携であり、日本の国土政策にとって大事なことだと思う。
- 来年の開通を予定している新東名における環境への取組みは、海外にも通じる高い技術であり、しっかりと記録に残しておくこと良い。
- 道路管制センターを視察し、高速道路はハード面だけでなく、高速道路を日々安全に運営していくというソフト面も重要であることを認識した。
- EXPASAを視察し、サービスエリアが「おもしろい」や「楽しい」と感じる場所に生まれ変わってきていると感じた。リニューアルは周辺地域の雇用の創出につながっており、地域にも役立っていることを理解した。

## 第9回CSR懇談会

2012年6月8日、「NEOPASA浜松」など4月14日に開通した新東名をご視察いただいた後、「CSR報告書2012」や当社が取り組むべきCSR活動などについて、意見交換を行いました。

### 委員の皆さまからいただいたご意見

#### 新東名・サービスエリアについて

- パスツアーなど旅行事業も活用して、最先端の技術や環境・人に対する配慮などを積極的にPRした方が良い。
- 新東名は、カーブや坂道がゆるやかで走りやすく快適である一方、居眠り対策など事故が拡大しない対策を考えていかなければならない。

- 高速道路が目的地に行くための機能だけでなく、ぶらっとパークという形で地域の方たちにとっていろいろな生活の楽しみを与える場になってきていると感じた。
- NEOPASAやEXPASAが、個々に地域に合ったコンセプトがしっかり検討され、そのコンセプトに沿った施設づくりがなされていることは素晴らしいことである。一方で、特に高齢のお客さまが安心して利用していただく上では、NEXCO中日本のサービスエリアに共通したサービスやコンセプトをもつことも重要である。
- 環境への取組みとして3Rについて具体的によく考えられている。また、リデュースを長寿命化という観点から捉え自然を無駄に使わないようにするという発想は良い。

#### 災害対策について

- 自衛隊などと連携を図り、災害が起きた場合に高速道路が応援・復旧のベースキャンプの役割を果たしていくことは非常に重要である。
- 竜巻や大雨などこれまで日本ではあまり体験してこなかった自然の猛威に対して、どのように対策を実施していくかが今後の大きな課題である。

#### 農山村活性化のCSR活動について

- お金だけを出して後は地域に任せるということではなく、社員自らが地域へ出て貢献し、意識を変えていく取組みであり素晴らしい。活動が定着した後は、さらに高速道路のお客さまなどに参加いただくなど、より多くの人たちが参加し地域を元気にしていきながら、高速道路の利用も増えていくなことにつながると良い。
- 地域で問題になっていることが何なのかを地域の人たちと同じ目線で考え、自分たちの仕事に活かしていく活動となっているところが良い。

#### KPIについて

- KPIは昨年度達成できたものと未達成であったものとあるようだが、企業統治の有効な手段として重要な試みである。
- 定性的なものを定量化して指標にするということが非常に重要である。